

| |
|---|
| 柔軟性 |
| 重い事例ほど連携が必要な場合が多いので、うまく機能するような連携のとり方が必要 |
| 重複障害をもつ方等困難事例への関与 |
| 重要と考えられるというよりは、小さな自治体に働く保健師は、否応無く命に関わるような事例への介入が必要となる場面が優先されると思います。 |
| 重要と考えられるというよりは、小さな自治体に働く保健師は、否応無く命に関わるような事例への介入が必要となる場面が優先されると思います。 |
| 重要と考えられる業務 町民・他機関から相談のあった事例への関与。機能 他機関や専門職種との連携 |
| 重要と考えられる業務かどうかは熟考したことがないのでわかりませんが、日々、他機関から依頼のあった困難事例、他機関で対応してもらえなかったと依頼される事例に関与しながらも、区役所内、近辺で倒れた人がいると対応を求められたり(命に関わるような危機介入事例になるのでしょうか。)の繰り返しです。重要と考えられるからするのではなく必要とされているのです。 |
| 重要な業務:精神・母子・思春期の健康教育 |
| 知遇困難事例へのケアマネジメント機能 |
| 知遇困難ケースに対する関係機関の連携 |
| 知遇困難ケースの介入方法 |
| 知遇困難ケースへの関与 |
| 知遇困難ケースへの関与 |
| 知遇困難ケースへの関与 精神障害者への支援 |
| 知遇困難ケースへの積極的なかわり |
| 知遇困難といわれている複数の関係機関が連携をとる必要のある手のかかる事例 |
| 知遇困難なケースに対し各専門機関と連携し関与していくこと。 |
| 知遇困難なケースへの対応(できることに限界ある) 予防活動のあり方とすすめ方 |
| 知遇困難な事例、誰がキーパーソンになって身守っていくべきなのかむずかしいケースへの関与 |
| 知遇困難な事例の他機関からの相談への対応、一事例に時間をかけてじっくり対応するのはむずかしいが今後増えていくと思います |
| 知遇困難な事例への介入・関与 健康づくりや予防活動の強化 |
| 知遇困難な事例への関与 |
| 知遇困難な事例への関与 |
| 知遇困難な事例への関与 |
| 知遇困難な事例への関与(産持も含め) |
| 知遇困難事例 |
| 知遇困難事例 |
| 知遇困難事例(家族介護困難、キーパーソンがいない事例、一人暮らし等) |
| 知遇困難事例、危機介入事例への関与。 |
| 知遇困難事例が増え、他機関からの依頼が多く、連携をしていく必要性がますます高くなる。 |
| 知遇困難事例での関係機関の調整 |
| 知遇困難事例に対するケアマネジメントリーダーとしての資質、及びその為の研修 |
| 知遇困難事例へのケアマネジメント機能 |
| 知遇困難事例への各機関との連携能力 |
| 知遇困難事例への関与 |
| 知遇困難事例への関与 |
| 知遇困難事例への関与 |
| 知遇困難事例への関与 |
| 知遇困難事例への関与 |
| 知遇困難事例への関与 |
| 知遇困難事例への関与 |
| 知遇困難事例への関与 企画立案 |
| 知遇困難事例への関与 予防活動(特に母子保健) |
| 知遇困難事例への対応 |
| 知遇困難事例への対応、そのためには、多機関との連携を図るための(普段からの)連絡会や事例検討会などの立ち上げ、ルートをつくる |
| 知遇困難事例への対応。 |
| 知遇困難事例への対応と他機関、職種との連携、コーディネート業務 |
| 知遇困難事例等保健師を必要とされるケースへの関与 地域住民、組織との連携 |
| 知遇困難者等のマネジメント 介護予防の推進 |
| 初期教育・たとえば乳幼児期の健康の土台としての育児・生活習慣病の初期の行動変化を実現させるかわり・健康に配慮した環境を守るためにはお金もかかっていくことへの住民のコンセンサスの形成等 |
| 初期痴呆や、自分の意思をきちんと伝えられない高齢者や、家庭内で立場の弱い高齢者で、本人の考えより、家族の考えが優先される事例への関与 |
| 所属する市町村での住民ニーズに答えられるように、目的達成することができるPHNが必要。実践でき、かつ計画する、評価する能力にたけた人が生きのびていけるのではないかと。何だか、もっと、目立ってアピールできる仕事はないのか。(災害対策とか…) |
| 所属する場において、最も適切な保健師でしかできない業務の実施。保健部門:健康づくり事業、生活習慣病などの疾病予防に関する業務 福祉部門:介護予防事業に関する業務。市民が自らの健康管理ができ、生活の質の向上が図れる支援業務。 |
| 所属する部署によって保健師の業務はかわると考えます。私の所属する当センターでは、1次予防的保健指導が重要業務だと思います。 |
| 所属する部署によって業務内容は異なると思いますが、根本的には地域住民が、健康であるためにはどうか、住民のニーズはどこにあるのかを考えながら動いていく必要があり、私自身が一番重要だと思うのは人間関係のとり方だと思います。 |
| 所属と業務内容によって違うと思いますが、現在の職務では、・要介護認定の質の確保としての調査の質の確保(主治医意見書も含む)、チェックと確認・介護支援専門員への指導、助言・困難事例の相談、調整等 |
| 書きたくない。 |
| 将来を見て事業を計画・展開していくこと 依頼がある場合すばやく対応できること |
| 少産少死となっている中で次の世代を任う、母子保健を大事に行き。(特に母の気持ちに寄りそ活動が大事) |

| |
|---|
| <p>少子、高齢化の中、老人に対する業務の整理はいるが子育て支援を含めた母子への積極的なかわりの中個々の事例への適切な援助、関与が非常に大事になってきていると感じている</p> |
| <p>少子化、核家族の増加に伴い、子どもに接したくない親が1人ないしは2人で育てていかなくてはならない現状がある。つくば市も転入・転出が多く、慣れない土地で親や友達もいない、子育てをしている方が多くいるため、そのような方に対して教室や訪問などを通して、育児不安の軽減ははかれるような育児支援が日々大切になってくると思う</p> |
| <p>少子化・核家族化が進んでおり、母子保健業務が大切と感じる。母子保健を大切にすればいろんな問題も少なくできる可能性があるため(精神保健・老人保健等の)</p> |
| <p>少子高齢化のことを考えると、やはり母子と介護予防についての自主組織づくり</p> |
| <p>少子高齢化のすすむ中、個別指導の重要性を感じている</p> |
| <p>少子高齢化を考えた住みよい町づくりの実現のため、それぞれの地域に応じた事業の展開 住民に身近な保健師として、住民が向ういてくのではなく、こちらから住民の側に向う保健活動が必要。(訪問や出前健康教育など)</p> |
| <p>少子高齢社会がすすむ中で、社会全体として健康意識の向上がはかれる様、健康指向のムードをもり上げる様な活動が必要 危機介入等についてはネットワークづくりが必要かと思ます</p> |
| <p>紹介、依頼、関与すべての事例を大切に親切に対応してゆきたいと思う。</p> |
| <p>障害は軽いが、健全者の中には入れない障害者の活動、交流の場を提供、促進していくこと。個々の関わりにおいて、把握した地域としての潜在的ニーズを、根拠、裏づけをとった上で施策に反映していくこと。</p> |
| <p>障害をもった親の子育てへの支援。若年者への子育て支援 虐待、DVに対するサポート体制の整備 ボランティアの育成</p> |
| <p>障害者(児)への健康づくりの関与 家族単位での支援の視点と関与(業務担当制になったため) 仕事内容を多くの人に知ってもらうこと(内外ともに)</p> |
| <p>障害者の財産管理に関わる知識 調整能力の向上</p> |
| <p>障害者の生活支援、相談業務を行い、社会で生活していくための社会資源、問題点の明確化をはかり、現在の事業を見直すこと。社会全体の中で何らかの障害をもちながらも生活していける安心できる地域づくりを目指す</p> |
| <p>障害者の生活状況の把握、サービスの提供 地域住民のニーズ把握と、それに対する問題解決に向けての取り組み</p> |
| <p>障害者の本意をよくききとり、ことばで表現して自己決定できるよう支援したい。障害者に寄り添って、自己実現できるよう支援したい。</p> |
| <p>障害者への関与</p> |
| <p>障害者分野について 障害者のニーズを把握し制度やサービスの調整的役割</p> |
| <p>常に関係機関との連携を取り、緊急時にも連携がとりやすいシステムづくり。</p> |
| <p>常に調整役になるとは限りませんが、他機関との連携なくしては、成り立たない事もあるので、連携をとりつつ住民に近い場に立った関わり方。</p> |
| <p>常に勉強する必要あり(常に医学は進歩している)でもなかなか時間がとれない</p> |
| <p>平日より他機関、専門職との連携をもっていること</p> |
| <p>情報では依頼としてあがってきたものを適確に判断(危機的な状況か緊急性はどうか)し、実行する力が必要かと思う</p> |
| <p>情報のとりあつかい</p> |
| <p>情報化社会なので住民と対話する、機会が、少なくなってくると思われる。しかし、現場へ向うことや、人と、直接会って話すという業務は、いつの時代になっても大切な業務だと思ふ。その中で、自分で得た情報を有効に活用し、問題解決していく、能力も大切と思ふ。</p> |
| <p>情報洪水の中から必要な情報を取捨選択し、住民のニーズと行政の動きを考えながら敏感に対応していく。</p> |
| <p>情報収集、情報提供 命くらしを守る ネットワーク</p> |
| <p>情報提供やコーディネート役になり、保健師が中心となり、各職種に紹介してもらう。</p> |
| <p>状況判断と協力体制の確立。</p> |
| <p>状態が悪化する前に予防できる視点、関係機関との連携をとり、いい方向へみちびく</p> |
| <p>職種や、部署によって、業務は異なり、そこで求められる機能としての役割も異なると思ます。種々広い分野に保健師は、現在動いている。それらを含めて全ての保健師にとって、重要なこととなると、やはり、「命を守る」という視点と感性だと考えます</p> |
| <p>職種や学校保健とより連携し、必要な応じて、その全体や個別の事例への関与が必要</p> |
| <p>職種の前に人としてどう人間性を高めていくのか(他職種との連携が多くなった今日、特に感じます)</p> |
| <p>職種を超えた連携体制づくり 連携可能な他職種・人材の育成</p> |
| <p>職種間の連携による、統一した関わりの中での健康づくりの差づくり</p> |
| <p>機能 個々の生活の視点に立った幅広い視点を持ち、トータル的に支えることができる力。ネットワークづくり、調整力、時代のニーズにそった保健活動を施策化する企画力 業務・多問題家族への事例の関与、虐待事例への関与、予防活動。</p> |
| <p>機能…リハビリテーション技術、運動療法</p> |
| <p>機能かどうかわかりませんが、保健所の業務が各市町村へ移譲されることが多くなったので、それらに対応できる能力と行政の職員として求められる業務も合わせて遂行できる能力でしようか</p> |
| <p>機能としては、地域をみて事業を企画する能力と、評価、分析する能力。自己満足におちいらぬ様に広い視野が必要かと思ます。</p> |
| <p>色々な観点からの予防がやはり重要だと思ふ。</p> |
| <p>信頼関係の構築</p> |
| <p>探たきり予防、介護予防活動etc予防が大勢！！</p> |
| <p>心と体の健康づくりと生命を守ることへの関与</p> |
| <p>心に問題を持った事例への関与、政策的能力</p> |
| <p>心のケア</p> |
| <p>心の健康づくり 介護予防</p> |
| <p>心の健康に関する事例への関与</p> |
| <p>心の問題</p> |
| <p>心の問題(自殺)のある事例への関与 他機関から依頼のある事例への関与</p> |
| <p>心の問題についてどのように関わっていくか(病的なレベルから予防まで幅広いため、どのレベルではどのような介入の仕方が望ましいのか等)</p> |
| <p>心身の健康問題の初期事例に関与する</p> |
| <p>心身の疾病の予防教育 疾病を予防する環境作り 心身の疾病の早期治療の為の教育と環境作り</p> |
| <p>新しいシステム構築への関与</p> |
| <p>新しい資源、自助グループの開発。他機関との連携・調整役。個別へのケアマネジメント式支援計画</p> |
| <p>新たな事業を考え、発言していける力。</p> |

| |
|--|
| 新たな専門職が誕生し、今までの保健師の役割は整理されていく時期 本来、保健師の専門性である広い視野での保健業務、保健業務外の部所でも、その視点をもった、それぞれの役割を果たしていくこと |
| 新制度をよく把握し地域にあったサービスにくみかえ実施できる能力 |
| 親の育児能力が不足していたり、虐待とみられたりする家族でも命に関わる程の状況にはならないが、子の成長・特に精神面、社会性での成長に影響を及ぼすと考えられるようなケースへの介入。 |
| 身近な相談機関として受ける事例への関与 |
| 身体・精神にかかわらず、病気になるための予防事業への関与。精神疾患・母子への危機介入事例への関与。 |
| 身体的、精神的な健康問題に悩んでいる人の話を聴き、うけとめ、可能な限りのフォローや、関係機関へつなげる。そのようなケースを数多くかかわりながら、事業の企画へつなげることができるとよいと思う。現在、保健師の存在が薄いとされる。 |
| 身体的・精神的な疾病の問題以外に、経済的、家族的、社会的な問題を複数かかえるケースが増加してきており、関係者の事例に対する共通認識と共通のかかわりができる様働きかけていくこと |
| 人(あらゆる人)の話をきける、整理してフィードバックしてあげられる、いっしょに考えていける能力 |
| 人が人らしく、幸せに満足して生きる事への援助 |
| 人づくりだと思ふ。 |
| 人と人とのつながりのサポート役 |
| 人員確保が難しい中、自分たちが実際に地域に出たり、事業にかかわっていくことが年々大変になっている。問題をすいあげ企画していくことはもちろん大切であるが、事務的な業務におかれ保健師の職種がみえずらく、これが保健師の業務と明確に出せる体制もとれずにいる。母子であれば子の安全を含めた健全育成にかかわる予防的かかわりは重要と思ふ |
| 人格形成上の基礎段階での関わり強化が必要と思われるので、母子保健の業務を大切に、地域づくりが重要と思ふ。 |
| 人権への配慮 |
| 人命に関わる問題を抱えている事例 |
| 水際で、大きな問題となる前の事例へ関わること。 |
| 世の中で起こっている、あらゆることに敏感に感じ根底にある問題点、原因は何かを見抜く力をつけること、時代の流れに乗りながら正しい方向性を自分たちで見つけ、業務を進められるようになりたい |
| 世の中の動き、法制度の変化、新設等に瞬時に対応できるようにできないといけない 市広く浅くでもいから対住民、対職員から「市の保健師に相談してみよう」…といわれるようにしなくてはならないと思ふ |
| 制度から外れてしまうケースの支援 住民参加型のまちづくり活動(子育て、閉じこもり、障害者、etc、etc) 同区役所内での地域活動に関わる課との連携 |
| 制度のはざまにあるケースへの関与 困難事例に関し、コーディネート機能での関与 |
| 制度のはざまになっているような事例への関与。地域の協力が必要なような事例への関与。 |
| 制度の狭間の構築を住民の声を大切にしながら、共に考えていくこと |
| 制度内で空いた部分(練引きにくい事例等)への関与 |
| 性感染症の予防=学校保健との連携(学校教育において、目的、目標の共有化を図ること)と保健師が協力して行っていく 産業保健との連携 |
| 成人でも老人でも、「予防的視点」に立って、介入できる視点と援助技術 |
| 成人病予防・寝たきり予防のための予防活動 |
| 政策、企画等に関わる業務 高齢者福祉、介護、身障、子育て等 感染症予防等 健康危機管理活動 地域コーディネーターとしての役割 |
| 政策化できる能力 |
| 政策企画能力 |
| 政策企画能力 ケースワークを適切にできる能力 |
| 政策計画力 |
| 政策立案への参画(今後合併等すすんでいく中で、企画の段階から関与していく必要性を感じる。) |
| 政策立案能力と他機関との連携強化 |
| 政令市の保健師の場合、所属する部署により、その役割が全く異ってくる。重要と思ふ業務、機能は“保健師の専門性”というキーワードに含まれる、多様なものとなってくのではないのでしょうか？ |
| 正しく物事を判断、理解できる目、柔軟な頭をもつ、他機関とのスムーズな連絡調整、関わり。 |
| 正直言って今おかれている立場で、保健師のやるべきことは…。がわからなくなっています。個別の対応も必要。介護予防も必要。 |
| 正直言って保健師の機能が見えづらく、分かりづらくなっているように思います。今までは、母子から老人までオールマイティーで良かったかもしれませんが、PSW、SW、介護支援専門員などそれぞれの分野で専門職が生まれてきた現在、保健師も生き残れる専門分野を身につける必要があると思っています。1. 対人関係能力、コミュニケーション能力。2. 調整能力 |
| 正直自身で迷いも多く自信をもって、これが重要と言えものがはっきりしない部分があります |
| 生きていく上で、健康上の悩みや問題は、誰でもあると思われる。それらを相談された時、ケースがよりよい行動がとれるように支援できること |
| 生きることに生命の大切さについての思春期教育、保護者教育 生活習慣病予防と介護予防 |
| 生まれてから、死ぬまで一貫したフォロー体制がとれるよう、保健分野にとどまらず、福祉、教育、医療の視点も常に頭に入れながら、個人、集団と出会っていくこと |
| 生涯にわたる全住民の健康管理、子どもの間だけや健診を受けた人のみに対する活動ではなく、全住民の生涯にわたる健康の保持増進・疾病予防が重要だと思ふ |
| 生涯を通じた保健、健康の保持増進のための健康づくり事業、母性(子ども、父親等含む)への支援 |
| 生活・育児がげい弱な人への関与 |
| 生活に不安、不自由な点がある人への支援 |
| 生活のしづらさに対する関与 |
| 生活の限界、生命の危機にさらされている事例への関与(虐待、痴呆等も含む) |
| 生活や育児困難事例への関与。関係機関と連携できる調整能力が重要 |
| 生活支援 |
| 生活者の視点をもち生活問題を明らかにしその問題に対する対策を企画、実施、評価する能力 同僚とともにチームでこれを遂行する能力が大切と思ふ |
| 生活習慣改善が必要な事例への関与 |
| 生活習慣病が増々多くなると思われる。乳幼児～学童期の指導に重きを置くべきだと思ふ(成人になれば個性を変えること(生活習慣を変えること)に対し力量が多く必要となる) |
| 生活習慣病の予防・介護予防、どちらも保健師の仕事として大切だと思ふ。 |
| 生活習慣病の予防・改善の事例への関与 |

| |
|--|
| 生活習慣病の予防のための指導徹底 病気の悪化予防 |
| 生活習慣病や虐待等の予防に関わる業務 |
| 生活習慣病予備群の事例への科学的根拠にもとづいた関与 |
| 生活習慣病予備群の事例への科学的根拠にもとづいた関与 |
| 生活習慣病予防 |
| 生活習慣病予防 介護予防 |
| 生活習慣病予防。虐待予防。 |
| 生活習慣病予防により健康寿命の延伸を図る。行動変容を起こさせるような指導技術が必要。 |
| 生活習慣病予防に関する若年世代への関与。(1次予防重視)(乳幼児期の食育から青・壮年期の生活改善のための指導) |
| 生活習慣病予防に関する保健活動が最も重要だと思います。住民が自分の健康問題に気づき、自分でまたは地域ぐるみで解決できるように学習活動を支えていけたらと思います。また生活習慣病だけでなく、人間の体の営みを科学的に理解できるように学習活動の支えが必要(母性も含め、すべての年齢層において…) |
| 生活習慣病予防のきっかけとなるような働きかけ 育児不安等への対応など子育て支援業務 |
| 生活習慣病予防活動 |
| 生活習慣病予防対策 |
| 生活習慣病予防等を目的とした、地区組織活動を円滑に実施できるよう様々な機関・住民との連携をすること。または、連携の手助けをすること。健康を目的とした「地域づくり」をすることが、行政に所属する保健師の役割だと思います |
| 生活習慣病予防へのとりくみ |
| 生活保護受給者に対する指導の中で疑問を感じるが多い |
| 生命に関わるようなものも含め対応困難(経済面・家族等問題が複数に及ぶ)な事例への関与と他機関の連携 福祉分野でも専門性を生かせるように活動する |
| 生命に関わるような危機介入も含め、地域全体をとらえ、把握したうえで、関係機関と役割を分担しながらの活動、コーディネート力 |
| 生命に関わるような緊急事態 |
| 生命に関わるような緊急的な事例 |
| 生命に関わる危機介入事例への関与は大切と考える。ただぐっと組織で関わらないと、あまりにサラリーマン的に個々がかかわって声を上げるだけでは、他の機関からは相手にされないのかなあ、と思う。～保健師さんはその人しか見てないから～でなくその人も全体も見ることが望ましいと思う。又必要と思うが現実には中々難しいですねー |
| 生命に直接関わるような事例への関与 |
| 生命の危機などを未然に防ぐための活動 |
| 生命の危機に関わる問題を、保健、医療、福祉の観点からとらえ、その解決方法について政策的にとらえることができること |
| 生命の危機や、生活していく上で困難になる前に、事前にキャッチし対応していくこと。たてのつながり横のつながりを深め、様々なケースに柔軟に迅速に対応していくこと |
| 生命や、その人の生活に問題のある事例への関与 |
| 生命を守る 健康向上 |
| 生命を守ることは最も重要なことだと思う。特に母子保健では、保健師が最も介入しやすい事例が多いと思う。 |
| 生命を大切にすること |
| 精神、アルコール、難病の方々の在宅生活を支える他機関への相談に対応できる能力 |
| 精神・成生活習慣病を含め、病気の予防活動 |
| 精神・転倒予防等と同じこもり予防へのアプローチ 児童虐待の早期発見のための部分的なアプローチ |
| 精神・母子・結核・難病など、あらゆる機関が連携を必要とするような事例への関与ーこれを共有し、PHNの力をつけるにはスーパーバイザーを入れた事例検討会(やり方をまちがえると意味がない)がとても大切である。 |
| 精神の患者があばれているなど緊急を要する事例の介入 |
| 精神の緊急対応はもちろんです 地区に向いての健康相談や住民の方々との他愛もないような会話の中にも大切なものは沢山隠れていると思うのでやはりそういったことも地道に続けていくべきだと思います。 |
| 精神や児童虐待などへの支援(母子対策も含めて) 介護予防への取り組み |
| 精神科における治療困難事例への関与 精神保健福祉業務の行政機関としての中核的役割 |
| 精神関係(産後、子育ての母親から痴呆に至るまで) |
| 精神虐待など危機介入事例が増加しています。地域や家族の機能も低下し、支えきれず公的機関の役割が増大してきています。危機介入にいたらない様に予防的なケースへのアプローチ及びボランティア育成、支援機関のネットワークづくりなど地域づくりが大切と考えます。 |
| 精神業務の強化(感情コントロールできなくなってきた子供、大人達、自殺予防etc) |
| 精神疾患のある事例へのマネジメントと多機関への協力要請。 |
| 精神疾患のある住民への対応。それができる能力。 |
| 精神疾患や診断のつかないグレーゾーン事例への関与。虐待予防、育児不安のある事例への関与。個の健康課題から地域の健康課題へと関連づけ事業の企画・運営をしていく。 |
| 精神疾患を持つ母、ひきこもり者などへの関与 |
| 精神疾患患者 虐待などの母子ケース |
| 精神疾患患者への関わり |
| 精神障害を認めない事例への関与 |
| 精神障害者についての住民への理解 |
| 精神障害者への生活支援 関係機関と連携を密にしたコーディネート的な役割が重要になってくると考えられる |
| 精神障害者や難病の方へのケア・マネジメント、および関係機関へのマネジメント能力 |
| 精神的なサポートが必要な事例への関与。 |
| 精神的なフォローが必要なケース |
| 精神病の人々への対応。 |
| 精神分野における社会資源の充実とケース対応 |
| 精神保健、虐待事例への関与 |
| 精神保健、心の健康に関する分野への関与 |
| 精神保健と関連するようなケースに対する事例への関与 病院への通院を勧めるべきか否かの判断や関わり方。 |

| |
|---|
| 精神保健と母子関係の業務 住民の健康のレベルアップにつながるような自助グループ等への支援 |
| 精神保健については、1) 予防活動 2) 相談業務 |
| 精神保健に関する業務が、重要な業務になってくる |
| 精神保健の事例で病識のない人を医療に結びつける 乳幼児の虐待ケースへの関与 |
| 精神保健関連の関係機関との連携 |
| 精神保健福祉社へのかわり |
| 精神保健福祉業務 |
| 精神保健福祉業務、接近困難事例への対応(ひきこもりなど) 小児・高齢者虐待の危機介入。 |
| 精神保健福祉係に配属されている保健師として 1. 社会的ひきこもりに対する関与 2. 精神障害と思われる未受診のケース(民生委員、生保ケースワーカー) 3. 虐待(高齢者、児童)関係機関からの依頼 4. 命にかかわる緊急対応事例 |
| 精神保健分野でのご本人の在宅生活支援 |
| 精神面でのフォローが必要な人が増えてきているので、市町村での関与が必要と思う。 |
| 精神面での障害への関与。 |
| 精神領域 ・社会的入院患者7万2千人が地域で生活していくために必要な支援(保健師として何が出来るか)ハード面が不十分と感じます(量的にも) ・自殺予防と危機介入 他職種とのさらなる連携と保健師独自の役割一だんだん不透明になってきていると感じる |
| 声に出さない、出せない住民に対しての関与 |
| 若・壮年期からの生活習慣病の予防 |
| 昔からかわらず…自分で健康を管理できる力をやしなえるようにあらゆる健康レベルの住民の健康の保証とその保持増進を環境をふくめ支援していく。その為には科学的根拠をもとに、他の部署や他職種との連携し、政策化できる能力をもつことが必要と、教科書通りにそう思っています!! |
| 昔も今も、地域住民の命と健康を守ることを第一に考え行動できるよう自己研鑽に努めることが大切。 |
| 積極的に他機関と連携していくこと |
| 積極的に他職種、他機関との連携をはかる。実績の積み重ねと行政ニーズの把握、調整。 |
| 積極的に連携をとり抱えこまずに対応できる能力 |
| 接近困難事例への関与。 |
| 設問が、大きすぎてどのように書けばよいのか、わからないが、自分自身は、地域に根ざして、地域で生活しているケースの健康課題をとらえ、対処していくことが基本である一と考えて業務をしている。 |
| 先に上げた印象に残る事例は、介護保険開始前に関わった人であり介護保険開始後は主に結核、精神担当に従事してきたため、介護保険と保健師の機能という視点で意見を求められてもよくわからない ただ現在精神担当に従事していて痛切に感じるのは、どの分野においても精神保健福祉に関する知識・技術がベースにあることが求められておりそれを基に母子・健康増進、高齢者・障害者対策等に関わり支援していける行政職として保健師の必要性は高いと思う |
| 先見の目を持って、適切に事例に関与できること 各事例に関わる時に優先順位を、適切につけ、関わること |
| 専門の分野が広がりがすぎている。中途半端に色々なことに手をつけるくらいなら、国保健師に戻れば良いと思う。より専門的な保健師へとなる必要がある。 |
| 専門化していくべき。オールマイティになると、中途半端で終わって使えものにならないと思う。保健師事体の資格の意味も不明になってきていると感じる。 |
| 専門機関の連絡調整 住民組織の育成、支援 |
| 専門職、関係機関と一緒に取り組む介護予防(ねたきり、痴呆予防) |
| 専門職でありながら、最近はいろいろな分野での活動があるため、保健師って?とまどうこともあるが、他職種との連携を積極的にとりながら「健康」で生活できることを目標に活動できればよい。 |
| 専門職である、ないに関わらず、色んな機関・人材と多様な仕事ができる保健師。 |
| 専門職どうして連携をとりあうことは可能だと思うが、どこまでの情報(データ)を共有するかは、個人差(考え方や価値感)があり難かしいと思う。問題解決のために必要な情報なのか不必要な情報なのか判断する能力が大切だと思う。 |
| 専門職として、関連機関との連携、対応 |
| 専門職として、他機関とも関わりながら、その知識を活かして役割をはたすことができる業務 |
| 専門職としてこだわらず、一般的な状況をみながら難しいことばかり言わず普通に他者からの相談に応じること。専門的な視点を失わないこと。保健師の専門的な教養を保持すること。行政では、事務的なことも知ること。等が重要と思われます。保健分野だけでなく、福祉、医療、教育委員会、社会教育、生涯学習等多くの分野で保健師の視点と力量が生かされると思います。時代への対応でいつも追いつけられながらポストがないのはつらいものです。あきらめるしかない。6ヶ月間うつ状態で休職しましたが、回復しました。 |
| 専門職としての意見を、事業立案から求められること。(現状は、骨格ができたあとの肉付けの一部になっているので) 例えば、町の総合計画 |
| 専門職としての視点やかかわりと共に自治体活動全般をとらえた中でどのように事業を運営していくかを考え実行出来る |
| 専門職としての自覚と専門性をベースにし他職種との連携した業務 |
| 専門職としての知識(経験)技術を活かした予防活動 個別ケースへの対応(多岐にわたる) |
| 専門職としての知識をもつ行政職員として、施策の計画、立案等へ積極的に参加すべきだと考える。 |
| 専門職として住民と関わり、声をよく聞いて事業を見直ししたりすることと思われ、もちろん、他所との連携をよくとっていないといけないとも感じています |
| 専門職として政策への関与。総合相談窓口の担当。 |
| 専門職として地域住民と協働で企画・運営していくこと |
| 専門職として幅広い視点から、様々な関連機関と調整し、記入例1. 命に関わるような危機介入事例への関与。 2. 他機関から依頼のあった事例への関与。のような事例に対し、対応、協力など関与していくこと |
| 専門職種がいろいろと出現し、保健師の専門性はと考えるこのごろです、このアンケートでもありますが、連携、ケアマネージメントが大切になってくるのではないかと思います |
| 専門職種がふえているので「地域のことなら何でも…」というのではなく、あるていどさび分けが必要、残ったものがPHN(特に行政の)の業務になっていくのでは?と考えます”危機介入”とかより”困難事例””多職種との連携が必要なケース”への関与となるのでしょうか |
| 専門性 |
| 専門性 困難ケースへの対応 |
| 専門性 地域という広いフィールドで働く、保健師にとってどんな事例でもひきうけるという状態では、いろんな問題に振り回されてしまう。保健分野でも、母子、成人など分野をきちんと区切って、その中で専門性を発揮するのが望ましいと思われる。 |
| 専門性にかたよらない様々な視点からのアプローチ |
| 専門性の確立と周知 |

| |
|---|
| 専門性の確立と周知 |
| 専門性の高い機関への仲介。保育園から、集団に適應できない児の相談をよく受けるが、すみやかに次の機関へつなげ、現場との連携しをする役割 |
| 専門性の重視 |
| 専門性も必要だと思うが、様々と複合している問題もあるのでそういった事にも対応できるようにならないといけないと思う |
| 専門性をいかせるような事例への関与 |
| 専門性を活かした事業企画 |
| 専門性を高め、より対応が困難なケースへの支援および、関係機関のコーディネート機能 地区組織化活動の支援 地域内の人をつないでいく活動 |
| 専門性を高める 看護職でいうリイゾン化、それぞれの分野で専門性を高めていく専門分化 一方で、何でも知っている、知識と経験豊富なPHNとなるため日々努力する |
| 専門性を持った活動(個別支援の充実から新規事業の立ちあげ等)※アンケートの内容が複雑で、正しい内容が記入できたか、不明です |
| 専門性を重視した保健事業の展開 |
| 専門性を生かした事業の計画や実施、その中には、住民参加型のまちづくりを行い、住民主導となっていける様、保健師としては、それをサポートしていける力を持つこと |
| 専門専任制でチームケアの一員となって活動すること |
| 専門知識を持ち、住民の身近な相談相手となる |
| 専門知識を持っている人がたくさんいるとは限らない その中で不可欠な情報提供がトラブルの予防になり連携することも事務系に比べて、慣れている分率先して動くこと必要。しかし、事務の方がよく知っていることも多いから話すことが大切 |
| 専門的な見方と判断力が必要な事例(例:精神、虚弱高齢者、子育てが困難な母親など) |
| 専門的な知識だけではなく、行政のしくみや予算等も積極的に学び、関係機関との連携、協議しながら自ら企画、立案、実行、評価しながら、事業に望むことが大事。広い視野で仕事ができ、やりがいがある。 |
| 専門的な知識や技術は日々変化するものなので、新しい情報を常にとり入れ、自分の知識向上に努め、それを業務にいかしていきたいです。 |
| 専門的知識 |
| 専門分化される傾向にある最近の状況の中で、多くの機関の連携はより必要とされると思われ、その中で、調整役をどう果たせるかが重要 |
| 専門分化している風潮の中で、公衆衛生の観点で何でも屋=ゼネラリストの役割を強調したい。 |
| 専門分野でのコーディネート現在はずべての業務に関して専門性に欠ける所がある(業務体制にもよる)ので、今後は市町村保健師も保健所方式がとればよい |
| 専門分野以外の分野についての学習(修得)趣味や、特技といったものや、人間の幅(人間性)情報管理に関するもの |
| 潜在している問題をかかえた事例への関与 |
| 潜在している問題事例の発掘と関与。 |
| 潜在する地域の人々のマンパワーをいかに引き出せるか?またそれをどう活用していくか?といった力がこれからの保健師には求められていると思う。 |
| 潜在ニーズの発掘やそれに対応するための新事業の企画力 |
| 潜在化している住民の健康問題への関与。 |
| 潜在的なニーズへの予防的な関わりと的確な事例化。また事例化した際の他機関との役割の明確化を調整する。 |
| 潜在的な健康問題を抱えた方への援助 |
| 潜在的な問題を抱える住民に対しての相談、解決できるような保健活動 |
| 全てに、予防活動。例:虐待予防のための親教育の構築と地域協力体制の構築、実施 例:介護予防のための地域活動 |
| 全ての面における予防業務とコーディネート技能が重要ではないかと思えます。 |
| 全て重要とは思いますが色々な相談があった時に多方面から解決策を考え連携をとれるようになる技術や関係づくりを大切にしたい |
| 全国的に、保健と福祉が統合されているので、福祉分野(介護保険関連)の仕事が増えていくと思う。母子保健における保健師業務が虐待予防に重きを置いている様に、今後、老人虐待への介入が否応なしに増加してくると思うし、困難事例への対応も増えてくると思われる。だからこそ、上記の様な個別対応だけに追われることなく、公衆衛生の専門職として、広く地域をみて、予防活動を実施する、といった従来の業務が重要だと思ふし、大切にしていきたいと思う |
| 全人的な対応 |
| 全体(地域)をみずえたかかわり。個人の力(住民主体のとりくみ)を発揮させる方法。 |
| 全体(地域-いろいろな機関)をみながら、また、将来的なビジョンをもちながら、業務を行うこと |
| 全体に接する中で援助を必要としている事例を早期に発見し対応する |
| 全体の調整役であり連携を大切にする |
| 全体をみての健康問題への企画、及び、実際に動くことも必要 |
| 全体をみて企画立案、事業を整理する能力。他職種を納得されられる合理的思考。 |
| 全体的な生活障害の把握とそれの対策のための施策化、困難事例への対応 |
| 全体的に質問が難解で、わかりません。仕事も個人としてではなく、保健センターとして頼まれるので"あなたが"というフレーズには抵抗がありました。 |
| 全体的に評価できることと評価した上で、次に何をすることが重要なのか、検討、実施すること 実施したことへの評価が、自己満足におわらない様、客観的評価の手法を身につけなければならないと思う |
| 全庁的なシステム、計画等の参画に専門職としてかかわっていくこと |
| 組織(住民の)をつくって健康に関する理解と実践を促すこと |
| 組織づくり(ネットワークづくり)事例への継続的な関わりとコーディネート |
| 組織づくり(従来のものではなく) |
| 創造力 コーディネート力 コミュニケーション能力 |
| 早期痴呆の方とその家族への支援。 |
| 早世予防、健康寿命の延伸のための一次予防活動が今後とも大事だと思います。 |
| 相手の気持ちを尊重する心を忘れずに接すること |
| 相談、健康教育業務 |
| 相談があった時に、一人でかかえずに一番的確な関係機関を判断し連絡し、連携をとる |
| 相談してこない、拒否する住民に対する関与 |
| 相談する相手もおらず、どこに助けを求めたらよいか迷っている事例への関与 |
| 相談のあったケース、ケース々々を大切にかかわること、関係機関が互いに協力して支えあうこと、個別ケースの状況を事業化していくこと |
| 相談のカウンセリング的対応 心のいやし部分の関与 |

| |
|--|
| 相談への対応(ケースワーク)と総合調整 地域の問題、ニーズの把握から情報のまとめ問題提起と政策形成 |
| 相談への対応を十分にできる保健師 障害、健康など全ての面を通しての面接技術が必要でないだろうか |
| 相談ルートにのらない方、谷間にいる方、自分から動きにくい方などについては公的な機関がまず相談にのる必要があると思う |
| 相談事業 訪問事業 特に早期にハイリスク者を把握し、支援していくことが予防活動になる。地域の中でも個の支援を大切にしていくことで次からの連携がスムーズになる |
| 相談事例の対応能力 |
| 相談事例や、介入が必要な事例があった時、他機関と連携や調整を図っていく。住民のニーズや地域の健康課題をきちんと把握し、事業を展開していく |
| 相談者が、自己決定し、より本人の生活に合ったサービスを利用できるようにするための情報提供、アドバイス 他機関、他職種との迅速な連絡調整 |
| 総合調整、支援 |
| 総合的な視点で市民の健康をみていくこと、施策化していくこと |
| 総合的な判断力と知識 |
| 即決即行が求められる事例への関与 |
| 他の関係機関との連携(文章化されている割に実施される事少ない) |
| 他の機関が係れない業務で優先度の高いもの 1. 虐待 |
| 他の機関との調整作業を行いコーディネーターとしての役割 |
| 他の機関との連携。地域の様子がわかり、自分たちで、健康について考えていけるように住民とかかわること |
| 他の機関と連携をとりやすい職種だと思うので、複数の機関のコーディネートをするのが重要かと思います。 |
| 他の機関へ依頼をしたり依頼のあった事例への関与 |
| 他の機関や職種が介入できない家族への支援(誰が介入してよいかわからない) |
| 他の機関や職種と連携し事業を行っていくこと |
| 他の業務に追われて、訪問活動が少なくなっていますが、保健師にとって一番大切な訪問にもっと力を入れていきたい。(ケースを通して、他機関との連携が広がったり、住民とのかかわりも増える。個別とのかかわりができなければ、集団のかかわりも難しい。1つ1つのケースを大切にしていきたい。) |
| 他の職種でも可能な業務と保健師が関わらなければならない業務の明確化をしておかねばならないと思います。何でも保健師ということが、今まで多く、仕事量が増えています 何が重要かは難しい課題ですので“推か整理して”という思いです |
| 他の職種と密に連携をとり、サービスを提供していく、又、あらゆる面に対して予防にもっと力を入れていく |
| 他の専門機関が対応できない(専門から外れた人)ケースへの関与 |
| 他の専門職種も含めての集まり(会議)を積極的に行う、コーディネーター的役割の強化。 |
| 他関係機関(NPO等)の役割を把握し、各機関の役割を明確にして、それをケース(住民)の対応に反映させること 他機関との連携 |
| 他機と連携して地区へ広く介入すること。保健分野だけでなく、その人の幸せや地区の発展へこうけんできるようさまざまな分野といっしょになって事業を展開すること。 |
| 他機の介入困難な事例への関与 |
| 他機関、関係者との連携強化 |
| 他機関、社会資源などを把握し、1つの事例に対し地域全体に関わっていきようなコーディネート役としての関与 |
| 他機関、住民組織との連携、予防的活動 |
| 他機関、職種への専門的知識、技術の指導力 特にコーディネートや、ネットワークの形成について |
| 他機関、他職種とのコーディネートの役割 |
| 他機関、他職種との連携 |
| 他機関、他職種との連携、協働活動 |
| 他機関、他職種との連携、連絡、調整 |
| 他機関、他職種との連携が必要。 |
| 他機関、他職種との連携と職能のレベルアップ |
| 他機関、他職種との連絡調整をする(コーディネート)能力。効果的な事業を企画、実施するため事業を適切に評価する能力。 |
| 他機関、他職種の業務を理解する事 |
| 他機関、他職種の人たちと協働できるスキル。事業におかれるのではなく、緊急時にも正しく判断できる心と仕事上でのゆとりも必要だと思います。 |
| 他機関、他都市からの転入などで訪問などの理由がつけにくいケースまた、拒まれるケースが増えているので、そのような事例への関与 |
| 他機関、他部署との連携 |
| 他機関、多職種との連携、役割に応じた活動(コーディネーター的活動) |
| 他機関、地域と協力して関わる必要のある事例 |
| 他機関、地域の組織との連携がスムーズにもてる |
| 他機関、特に地域の住民組織から依頼のあった事例への関与 |
| 他機関・他職種との連携 |
| 他機関・地域の人と連携を密にとり、問題を解決していく力。 |
| 他機関が、手が出せない間の対象者への関わり |
| 他機関から関わらず、依頼のあった事例への早期関与 |
| 他機関からの依頼のあった事例での双方の連携のとり方 |
| 他機関からの依頼のあった事例の関与 |
| 他機関からの依頼のあった事例への関与 |
| 他機関からの依頼のあった事例への関与 |
| 他機関からの依頼のあった事例への関与 介護予防の重要性の高い事例への積極的な関与 |
| 他機関からの依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関からの依頼のあった事例への関与。連携に際しては、だれがどう動いていくのかを皆で承知しておくこと いざという時にうける体制を日頃よりとってあることが大切だと思う |
| 他機関からの依頼の場合、他機関からPHNに期待するものと、PHNのかかわるべきあり方にズレがある場合が多々ある 全面的にPHNにケースをまかせたいという場合も多い、互いの職種や能力の認識や、連携の強化により効果的にケース対応できるよう全体的な調整をはかるべきだろうと思う |

| |
|---|
| 他機関から依頼のあった事例への関与 コーディネート 健康教育 正しい知識の啓もう |
| 他機関から依頼のあった事例への関与 事業の中から必要と思われた事例への関与 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与 他機関との調整、マネージメント力 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与 他機関との調整機能 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与(コーディネート機能) |
| 他機関から依頼のあった事例への関与(行政内部多部署から依頼のあった事例や医療機関等、関係機関から依頼のあったものについては、責任をもって関与していく) |
| 他機関から依頼のあった事例への関与、特にリーダー的立場で関与していくことが求められると思う |
| 他機関から依頼のあった事例への関与、連携 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。一介護保険のケアマネ、在宅介護支援センターなどのかかえる困難ケースへの支援は必要である。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。一特に困難事例への関与 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。そのために、保健医療等の知識技術だけでなく、福祉を中心とした、ソーシャルワークが重要な機能と考える。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。どの機関でも対応できないケースへの関与 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。と明確な位置づけ |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。介護予防の活動、健康問題の早期発見をし、解決にむけて、住民に気づきをもたらす活動をしていくこと。(地域の実情に合わせて) |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。関係機関と連絡調整する中で、ケアマネージメントができること。統計的処理からの問題点を明確化し、計画がたてられること。事業の評価が、科学的にだせるようになること(願望も含めて) |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。危機介入事例への関与、心理面への関与 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。総合的に判断できるような力、能力。介護予防対策。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。他機関との連携 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与。地域との連携を密にした活動。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与と連携のとり方 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与など。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与について重要か(必要か)保健事業の中での位置づけとしての確認がなければならない。事例の解決とともに、機能する有効なシステムづくりが必要。 |
| 他機関から依頼のあった事例への関与をとおして又他機関の関与のある事例について一緒に考えていくことで、連携を強化し、個人が住み慣れた地域で、安心して暮らしているシステムづくりをする |
| 他機関から依頼のあった事例へ関与し、連携して支援し、結果を共有すること |
| 他機関から依頼のあった事例や、生命にかかわる時のフォローと連携 |
| 他機関から依頼のあった事例等への関与 |
| 他機関から依頼のあった時の迅速な対応 虐待予防に関わる個別援助 高齢者見守りの地域づくり |
| 他機関から依頼の事例 |
| 他機関から困難事例として相談あった時のスーパーバイザー的な役割 |
| 他機関から情報提供された事例への関与と、そこでの多職種との連携、情報提供先へのフィードバック、検討会開催など。 |
| 他機関から命に関わるような危機介入事例への依頼があった場合、ex精神の患者に対し保健所から市町村に依頼が来るような時は誰がどんな役割で介入するかということとは、マニュアル通りにすすめられるものではないが、柔軟に対応できる体制が必要と考える |
| 他機関が関与していない事例への関与 |
| 他機関が把握した事例について、連携して関わっていくこと、個々の事例について、必要があれば他機関と連携していくこと |
| 他機関が複数関わっているケースのコーディネーター的役割 |
| 他機関での関与が困難な事例への関与(単一機関) |
| 他機関では、できない業務に優先順位をつけて対応していくことが大切だと思います。職員数も予算も増えない時代であり、住民からのニーズも多様化しているので、依頼があったから…と、何もかもに対応していくことは無理だと思います。 |
| 他機関で対応できない事例への関与。(コーディネート) |
| 他機関といつ、どういう形で連携をとればスムーズにケースの問題解決になるのかの技術(いかにうまく自分が持つてない情報を他から共有させてもらうか、日常的に声をかけあうこと) |
| 他機関とのコーディネート |
| 他機関とのコーディネート |

| |
|--|
| 他機関との連携が大切だと感じる |
| 他機関との連携が必要な事例の関係機関の連携や、役割分担をコーディネートする能力。 |
| 他機関との連携が必要な事例への調整役としての関与。 |
| 他機関との連携キノウ |
| 他機関との連携キノウ |
| 他機関との連携コーディネイトの役割が出てくる。分野としては、母子保健(虐待、子どもが中心となる育児支援)心のケア、介護予防が中心となると思われる。 |
| 他機関との連携した結果、コーディネートして整理し行動する能力 |
| 他機関との連携して専門性を生かして対応する。個を大切にしてい |
| 他機関との連携と処遇困難事例への関与 |
| 他機関との連携によって支援すること。 |
| 他機関との連携により、同道または協力しながら状況把握する事例。 |
| 他機関との連携により住民の健康への支援。対象者の立場に立った支援。母子関係、業務の充実 |
| 他機関との連携により多方面から住民に主体的な健康づくりができるよう働きかけること |
| 他機関との連携による事例への関与。 |
| 他機関との連携に基づき、そのケースに、どのようなサービスが利用できるか、コーディネートする |
| 他機関との連携のとれた事例。1人のケースに1つの機関ではなく様々な機関が関わっていくことが必要だと思われる |
| 他機関との連携のもと、命に関わるようなケースへの介入事例への関与。 |
| 他機関との連携のもと政策企画への関与。地域住民の視点にたった仕事の企画と実施が重要である(住民主体で活動していけるような支援活動:コーディネーター役になること) |
| 他機関との連携の強化 |
| 他機関との連携の強化、ネットワークづくり |
| 他機関との連携の中でのPHNの役割の練引き |
| 他機関との連携の中での困っている住民へのきめ細かい援助。 |
| 他機関との連携の中心となり、業務を行っていくこと |
| 他機関との連携は、とても大切だと思います。特に精神保健事業の一部が、市町村に委譲されてからは痛感しています。 |
| 他機関との連携やコーディネート |
| 他機関との連携や情報提供 |
| 他機関との連携や情報提供 |
| 他機関との連携をすすめて、ケースに対するコーディネート |
| 他機関との連携をとりながら、事例への関与を行う。 |
| 他機関との連携を図っていけるようなコーディネートの役割が必要でないかと思ひます |
| 他機関との連携を図りながらサービスを築きあげている |
| 他機関との連携を図ること。 |
| 他機関との連携を大切にしていきたいと思ひしそれが重要だと思います。 |
| 他機関との連携を密にし、ケースによりよいサービスが提供できるために調整ができること |
| 他機関との連携を密にした事例への関与 |
| 他機関との連携を密にとり、情報、支援目標を共有し、役割分担してチームでケース・地域を支援していくこと |
| 他機関との連携を要す事例への関与 |
| 他機関との連携及び住民との協働による、社会のヘルスアップ活動 |
| 他機関との連携強化 |
| 他機関との連携体制を整えながら、継続して事例に関わり、支援していくこと。 |
| 他機関との連携体制を調整し、適切な対応をしていく。 |
| 他機関との連携特に他職種との連携を密にする事により仕事の能率も高まる |
| 他機関との連携 |
| 他機関との連絡・調整機能 |
| 他機関との連絡調整 |
| 他機関との連絡調整。自分の役割をはっきりさせて事例に関わる。 |
| 他機関との連絡調整が必要とする事例に関与 |
| 他機関との連絡調整と地域の施策に向けた情報提供 |
| 他機関との連絡調整などのコーディネート能力 |
| 他機関とより連携をとりあい、専門性をお互いに生かす問題ケース(虐待、DV、精神など)へ関わっていく柔軟な連携の構築。 |
| 他機関と一緒に動く時は、そこそこの役割をきちんと分担することが大事だと感じるが、ジレンマもある。 |
| 他機関と協力し合える関係づくりができる |
| 他機関と情報交換をし連携しながら事例に対応する |
| 他機関と他機関の連携のための積極的業務 |
| 他機関と日頃から関わりをもち、事例にとって最も善い援助をしていくこと。 |
| 他機関と連携ができる人間関係と手法をもつ |
| 他機関と連携が必要なケースへの関与 |
| 他機関と連携し、危機介入 |
| 他機関と連携し、個々に適した支援を行える様にする事 |
| 他機関と連携し、処遇困難な事例に対応する。個人の関わりで終わるのでなく、それをふまえて地域全体をどうしていくかを考えていく |
| 他機関と連携し、地域の保健師の役割を明確にすること。他機関の役割分担。仕事内容も明確にし、スムーズに連携出来ることが重要と思う。 |
| 他機関と連携し、調整やコーディネイトの役割をもつ。住民の身近な存在となり事業を展開する。 |
| 他機関と連携した事例への関与 |
| 他機関と連携した迅速な事例介入。 |

| |
|--|
| 他機関と連携しての保健活動 |
| 他機関と連携しながらの事例への関与 |
| 他機関と連携しながら危機介入事例に対応する予防活動の推進と組織活動の支援 |
| 他機関と連携しながら行務をすすめていくコーディネート的な役割 |
| 他機関と連携と具体的な役割分担 |
| 他機関と連携の必要な事例の増加が考えられる、他機関と連携して問題解決していく力が求められる |
| 他機関と連携をした仕事 |
| 他機関と連携をとり、その市民のニーズにあったサービスの提供。 |
| 他機関と連携をもち、コーディネートできる能力 事業の評価と、費用対効果を考える能力 |
| 他機関と連携を持ち加害困難事例へ関与していく力。他機関とのネットワーク作り |
| 他機関と連携を取りながら、危機を未然に防ぐこと |
| 他機関と連携を必要とする事例への関与 主として、老人虐待問題等について |
| 他機関と連絡調整をするための業務 |
| 他機関に渡っての業務が増えてくる中、企画、調整能力をもったPHNが要求される |
| 他機関のコーディネート |
| 他機関のと連携が必要な事例への関与。 |
| 他機関の業務内容や、そこにいる職員の仕事を日頃から把握し、適切なところへ自分が相談にいけること。 |
| 他機関の業務内容を知り、一緒に関与していく。 |
| 他機関の職員との親睦 健康づくり |
| 他機関の連携(特に介護保険課) |
| 他機関への積極的な連携 |
| 他機関も視野に入れて活動できる自由な発想 |
| 他機関や、困難事例への対応について、母子保健への業務が重要と考えられる |
| 他機関や、他の人をまきこんでケースに関わっていくこと。 |
| 他機関や事例から得た情報の集積と整理、分析。 |
| 他機関や住民から依頼・連絡を受けた事例に多方面から関与していくこと |
| 他機関や専門職との連携をしながらの対応 |
| 他機関や他課との連携した仕事が多くなると思う。どのように関与していくか、地域の問題をどのように行政施策にのせていくか |
| 他機関や他職種から依頼のあった事例への関与 |
| 他機関や他部門との連携、行政組織では、部門ごとに情報が分かれて入ることが多いため、それをうまくつなぎ合わせることができるのは、保健師なのではないかと思う。住民が暮らしやすい柔軟さが、必要だと思う。 |
| 他機関をコーディネートする能力が求められると考えます |
| 他機関をよく把握し、コーディネートしていくこと。 |
| 他機関他職種との連携 |
| 他機関同士を結ぶ接点となること。 |
| 他機関連携 |
| 他市町村との密な連携(HV依頼やfollowケースの申し送りetc) |
| 他職からもっと評価できる、見える物を出すよう求められる 見えない物を見えるようにする力が必要なのか？それとも見えないものは見えないと言うべきなのか？ |
| 他職種(ケアマネ、在支、住民ボラ)への保健(介護予防、疾病予防、健康づくり他)に関する視点を持つことへの指示助言とチームの一員となっかかわる姿勢。 |
| 他職種(関係機関)とうまく(密に)連携をとりながら、ライフステージのスタートである母子への支援の充実や、一次予防のための生活習慣の改善や健康の増進のための運動の普及、定着等を住民がどのようにしたら実践できるかを一緒に考え、支援していくこと。 |
| 他職種(機関)と連携が必要でコーディネーターの役割が必要な事例 |
| 他職種(専門職など)との連携 |
| 他職種、機関との連携 |
| 他職種、機関と連携しながらのコーディネーターの役割 |
| 他職種、他機関との連携 |
| 他職種、他機関との連携 |
| 他職種、他機関との連携 |
| 他職種、他機関との連携・調整 |
| 他職種、他機関との連携の全体を見まわして調整役として活動する。 |
| 他職種、他機関との連携の中でのマネジメント能力 |
| 他職種、他機関に対する理解と連携 |
| 他職種、多機関との連携、連絡調整 |
| 他職種・他機関とのコーディネート能力。 |
| 他職種・他機関と連携する中で保健師の姿勢は保ちつつも多様な情報を加味した活動が実施できること |
| 他職種が関わる事業・ケースへの積極的関与。 |
| 他職種が連携して支援する事例のコーディネート |
| 他職種との、より密な連携 |
| 他職種とのかわり、住民とのかわりが一番多くできる職種なため、そこを生かし、連携づくりへの関与 |
| 他職種とのチームワークをとる 他機関との連携について |
| 他職種とのマネジメント能力 |
| 他職種との円滑な連携・役割分担 行政組織の中での位置づけ(法等に強くなること) |
| 他職種との業務コーディネートを固り業務企画、調整する |
| 他職種との調整、連携 住民の声を聞き事業にいかす |
| 他職種との連携 |
| 他職種との連携 |

| |
|---|
| 他職種との連携 |
| 他職種との連携 |
| 他職種との連携 他職種の役割の知識をえる |
| 他職種との連携(密な) |
| 他職種との連携、コーディネイト |
| 他職種との連携、企画・調整力 |
| 他職種との連携。その地域(人)に必要な事を分析し、企画(マネジメント)する事 |
| 他職種との連携をとり、問題解決をしていくシステムづくりが必要と思う。 |
| 他職種との連携活動。 |
| 他職種との連携強化 |
| 他職種との連絡調整能力、個別への関わり、個別対応できる能力、経験、フォロー |
| 他職種と協力して問題を解決できる能力 |
| 他職種と連携していくこと。1人1人の健康に関するセルフケア能力を高めていけるよう関わっていくこと。 |
| 他職種と連携していなかでの保健師としての役割・職能 |
| 他職種と連携していく姿勢 |
| 他職種の連携による介護予防・健康づくり |
| 他職種は、エリアがあるが、保健師は、フィールドが広い。オールマイティに、動き易い。 |
| 他職種や関係機関との連携 |
| 他職種や関係機関との連携 |
| 他職種や住民と協同での保健・予防への政策 |
| 他職種や他機関が関われない事例への関与。 |
| 他部門と協働してとりくむこと |
| 他問題、虐待などさまざまな機関の連携、介入が必要な困難事例への対応 |
| 多くの機関との連携。 |
| 多くの市民が関心を持ち、実行できるような予防活動 |
| 多くの情報が流れている現状で、偏った部分のみを信じてしまう人も多い。正しい情報、最新の情報を提供し、押しつけでなく、本人自身が自己決定していけるようなサポート、決定した後の気持ちによりそったサポートなどが必要だと考える。今は、PHNがいなくなっても、誰も困らないような気がするが、なくてはならない専門職の1員となっていけるよう努力したい。 |
| 多くの職種が、色々な専門的立場をもって、介入してくる事例が、増えてくる中で、地域の中で暮らすには、どのように対応すればよいか、事例のケースと身近になって、一緒に考えていけるような関与の仕方が、大切になってくると思う。その為には、多くの知識と技術の習得が必要となるので、タイムリーな研修会には、積極的に参加できる体制づくりが重要と考える。 |
| 多くの職種や地域がかかわることが、必要である事例への関与 |
| 多くの他機関が関わっている事例への関与と、何もかかわりがない事例への関与。 |
| 多くの複雑な問題を抱える事例など |
| 多くの問題がある事例(個人・家族)への関与。 |
| 多くの問題を持つ事例の関与 |
| 多くの問題を抱えた対象が、問題を解決できる様に分類、整理し方向づけしていくこと |
| 多岐にわたる連携を必要とする事例への関与 |
| 多機関が関わるケースの保健師のもつ判断能力。 |
| 多機関との関わりが多くなる事例がふえているため連携調整が重要。 |
| 多機関との調整 インフォーマルサポートを含めた、多面的な支援の構築 |
| 多機関のスタッフの介入が必要な処遇困難ケースへの関与(全体のケースワーク的役割) |
| 多機関の関わりが必要となる事例への関与 |
| 多機関の調整が必要な事例のコーディネイト |
| 多機関調整の必要な事例への関与 |
| 多様な多様な機関との連携が必要なケースへのかかわり |
| 多様な事例に柔軟に対応できる職能が必要だと思う |
| 多職種、多職種の中での保健師の専門性の発揮 |
| 多職種、多機関との連絡調整が必要な事例への関与 地域の組織との連携が必要な事例への関与 |
| 多職種、多機関のコーディネイト 閉じこもり事例への関与 |
| 多職種とかかわって仕事をしていきますので保健師としての役割を明確にもっていかなければならない 虐待、DV事例 |
| 多職種の関わる事例又全く関わりがない事例への介入 家族、スタッフ間のコーディネイト 新しい医療情報や健康維持の為の情報の住民への啓業活動(健康教育) |
| 多数の機関との連携を視野に入れた、サービス調整会議の企画運営能力とケース・ワーク |
| 多分野への関与 |
| 多面的で正確な地区把握の能力と問題点の整理 積極的に関わろうとする意欲。 |
| 多問題ケースが時代と共にかなり増加していると思われ、今まで以上に他機関との連携が必要、また保健師1人1人の意識の向上とスキルアップに積極的になるべき。あきらめないこと。 |
| 多問題ケースであり、他機関との連携が必要となる事例への関与 |
| 多問題ケースに関わる関係機関間の連携、調整 |
| 多問題ケースのかかわり…関係機関と連携をとりながら、そのコーディネイト役 |
| 多問題ケースはどこでも受けたがらないので、そういう事例にかかわっていく必要があると思います 今、機能別のしくみが多く、専門や担当分野はわかるが、他は知らなかったり、ひきうけたがらないことが多くなりましたので、専門すぎないようにするのが大切だと思います。 |
| 多問題を抱える困難事例への関与。 |
| 多問題を抱える事例、老人虐待、精神など困難事例への関与 |
| 多問題を抱える事例への関与 家族支援が必要な事例への関与 |
| 多問題家族への介入とコーディネイト |
| 多問題家庭の増加から、地域における情報を適確に収集する為に連携をはかる事が出来る能力と組織育成能力、問題発生時に、すみやかに情報提供が実施できる為の、情報管理能力 地域での諸問題を行政の政策につなげていく能力 |

| |
|---|
| 多問題事例への関与 |
| 多様な専門家が専門化されてきていて、「保健師は何」「保健師はいらなくなる？」という考えも浮かびそうな反面、健康な人の健康づくり「予防」ができ、どこへでも入っているのも保健師ならではの強み。世話やきなおばちゃんのような住民が一番近い専門家が保健師なのかな。又、市町村の保健師であれば、「健康づくり+町づくり+人づくり」のグローバルな視野と活動が求められる気がします |
| 多様化した専門機関や各機関のすき間をうめる役。 |
| 多様化するケースへの対応・知識 |
| 多様化する育児事例への関与。 |
| 多様化する住民のニーズに対する対応力 |
| 体も心も合わせて総合的にその人の相談にのれる能力。 |
| 対応や、処遇、カスタマーサービスだけに偏らないゼネラルサービスの視点。公衆衛生 |
| 対応困難なケースへの関与。 |
| 対応困難事例への問題解決について積極的にとりくんでいく |
| 対応困難事例への対応 |
| 対応事例を元に予防事業を企画していく業務 |
| 対象となる人々の健康度を高める関わりをし、それができるシステムをつくること |
| 対象にとって必要な支援をコーディネートする技術 |
| 対象に合ったサービスの提供や支援を行い、対象の生活の質を向上させること。 |
| 対象のニーズに適切なタイミングで関わり、関係機関との連携をはかること。 |
| 対象のプライバシーを守りながらも、関係者間の連携をとること |
| 対象の求めることを的確に促え、その時その時に合ったサービスをすすめたり、検討したりしていくこと。 |
| 対象の生活背景、発達に応じた保健サービスの提供 |
| 対象は全住民。受持ち地区をもち、そこに住む人の健康レベルUPのための訪問活動地区活動が重要だと思います |
| 対象事例の幅が広すぎて、何か重要なのか分かりずらくなっている現状がある。虐待は非常に困難だが、関わらなくては…と思う |
| 対象者によって「健康とは」が異なるため、特別重要と考えられる業務はないと考えます |
| 対象者のニーズにあった保健活動の提供。 |
| 対象者のニーズに沿った関与の仕方 |
| 対象者の関係機関との連絡・調整 |
| 対象者の健康設計を共に考えられること |
| 対象者の健康面からの視点 QOLからの視点 生活者としての立場からの数年先の視点 予防的視点をもったかわり とくに予防的視点 |
| 対象者の現状把握 |
| 対象者の問題点の把握、支援のコーディネート等の考察と評価 自立を促すことを目的とした支援 |
| 対人サービスと調整力 |
| 対人関係のスキル。カウンセリング技術。情報処理能力。 |
| 対人指導のみならず、環境改善、多種多様な人のニーズに沿った健康政策 |
| 大きな企画政策への関与 |
| 大きな視野をもって一情報収集能力 きちんとコーディネートする |
| 大きな問題が発生する前に発見、介入していく予防的な役割 |
| 大人が責任をもって心豊かな育児一人間育てを行えるように援助、支援していきたい またそれによって大人も私も人間として成長したい |
| 大切にしていきたいのは、個への関わりの中で援助していける機能を失わないことだと思います。介護予防事業のように小集団を活用する業務と個別的な援助(訪問活動等)とが効率的に提供できることが重要だと思います |
| 第1次予防、潜在的なneedsや問題を掘りおこし、事業として立ち上げ、問題の改善、回復を図る |
| 第1窓口として安心して相談でき、必要な場合(関連の専門機関との連携システムがある程度)他機関と連携して援助する。保健師に何でも振ってくる場合が多いが、それぞれの機関の責任はそれぞれで負うべきである。燃えつきも心配される。 |
| 第一次の予防活動。健康増進への取り組み。 |
| 第一次予防事業の方法論の確立 |
| 単純な一般事務作業でない業務。若い働き盛りの年代へのアプローチ、企業との連携による平日、昼間仕事を持っている人への関わり |
| 担当する業務(精神、成人、母子)とかによると思うが、現在担当している成人・老人という関係であれば予防重視 1事例にかかわるというよりは… |
| 担当地区における、継続的個別支援と機会ごとの健康教育 |
| 担当地区の課題となるような健康問題に対する把握とアプローチの能力 |
| 担当地区の責任より、市全体を考えられるようふだんから情報を得て、意見が伺える。危機介入を連携体制で支援できる能力 |
| 知識 技術 |
| 地域(住民)との連携 人づくりだと思ふ。 |
| 地域(地区)全体健康レベルの向上(地区受けもち制なので…) |
| 地域、他職種との連携とそのための地区組織活動 |
| 地域・住民の状況にあった保健サービス、活動の企画と質の担保 長期的にみても評価が出る体制 |
| 地域がかかえる健康問題の明確化と目標をもった活動 |
| 地域からの相談事例に対して1つ1つ丁寧に対応していく姿勢 地域にある様々な機関との連携 |
| 地域から依頼のあった事例への関与 家族が関与拒否している事例 |
| 地域が健康であるために関与する 問題がおこる前に予防する |
| 地域ぐるみ、地域主体の健康づくりへの関与 |
| 地域ケアコーディネーション 地域づくり |
| 地域ケアコーディネーションの役割 |
| 地域ケアのコーディネーション業務 |
| 地域ケア業務 |
| 地域づくり |

| |
|--|
| 地域づくり |
| 地域づくり |
| 地域づくり 健康づくり |
| 地域づくり、支えあうネットワークづくり |
| 地域づくり、人づくり 地域の見守り、声かけなど、公的サービスだけで支えきれない高齢者と地域全体で支えるという意識を広く住民に伝えていく |
| 地域づくり：住民個々ができるだけ自分の生き方に對し豊かに生活していけるための地域資源づくり、そのために、住民ニーズの把握と今後必要な資源づくりのための住民意識の向上と、連携のためのお互いの情報交換そしてそれを形としていくための力量 |
| 地域づくりと地域の中で仲間づくり、健康づくりを推進する人づくり、子育てが地域の関係が希薄な現在では、必要と考えます。 |
| 地域づくりの視点 |
| 地域づくりを考えた健康づくり |
| 地域でおこっている健康問題を、だれがイニシアティブを持ってどこと連携をとっていくのか、すみやかに判断し構築していく能力を持つ事、そしてそれを政策に結びつけていける能力を養う事 |
| 地域でその人がその人らしく暮らしていけるようなケアマネジメントが必要な事例 |
| 地域でのジェネラリスト |
| 地域でのネットワークづくり |
| 地域での健康度を向上させるための施策の立案 |
| 地域での健康問題の把握とそれに対するアプローチ。そして評価 |
| 地域での公衆衛生、保健の専門家は市町村ではPHNであるが今は、保健も福祉も、いろいろなことが求められすぎている。それに対応するには機能分化(一人ひとりが各パートの専門家)しないと対応できにくくなっているが、PHN活動の基本である 業務がキチンとできることが大切と思う。又、いろいろなアンケート調査がいろいろなところから来て、それを処理する事務量が多く仕事を圧迫している |
| 地域での住民と共に健康づくりについて考えるしくみづくり |
| 地域での処遇困難ケースについては行政としてもっと関わっていく必要があると思う、個人的にはケースワークに関わり、地域との連携を強化したい |
| 地域での情報を吸い上げ施策化していく。(住民との接触が少なくなると、感度が鈍る) |
| 地域での生活が困難な事例への関与 |
| 地域での問題を、個別のケース、単発の事業で終わらせるのではなく、先を見通した事業計画と、それを受け入れてもらえる立場の確立 |
| 地域で健康等の問題点を把握し効果的な対処方法を実行できること |
| 地域で孤立している事例への関与 |
| 地域で人々が安心して暮らせる町作りのため上記の事例への関与も含め地域住民の理解を深めること |
| 地域で生活している人の健康支援が多様化しているのでこの分野が最も重要と言いきれないところがある。広く浅く関わりがちと言われるが、公衆衛生の立場で動けるのは保健師しかいないので、そのメリットを十分に活かして、他機関と問題を共有化しながら機能を発揮していけたらよいと思う。 |
| 地域で生活する人がより健康的になれるように直接サービスを提供し、かつ、役割を超える支援内容については、他機関との連携により、サービスを得られるように広い視野でかかわること。 |
| 地域で暮らしていけるような支援 |
| 地域で問題を抱えているケースに対し、連携をとって関わっていくこと、生活習慣病の予防 |
| 地域とつながりのある支援をすること |
| 地域との交流(つながり)がうまく、問題をかかえていても表面にあらわれにくい(潜在している)事例。(本人や家族がその問題に気づいていない事例。) |
| 地域との連携 |
| 地域との連携 インフォーマルな地域活動に対する支援 |
| 地域との連携 システムづくり 新しい時代における行政PHNの役割を考えを統一して |
| 地域との連携 行政施策への関与 |
| 地域との連携、調整能力など |
| 地域と職域の連携促進 |
| 地域などから、情報のあった事例への関与 |
| 地域にあった活動をする事 |
| 地域にあった保健事業の展開。他職種・他部門との上手な連携法。 |
| 地域にある、医療機関、福祉施設、民間事業所、地域関係者、地域住民も含めた、地域全体のケアシステムの構築に関係する直接介入および、ケアコーディネート、マネージメント、スーパーバイズ等。 |
| 地域にある資源を生かし、また必要なサービスメニューを民間と一緒に作りあげ、在宅の要介護者を24h、365日支えられるようコーディネートしていく力。 |
| 地域にうもれているケースへのフォロー |
| 地域におけるケアネットワークを日常的に機動させていく体制の構築、住民主導、参加型ケアネットの推進 |
| 地域における健康づくりへの関与 |
| 地域における健康問題の傾向の把握と、それに対する事業の展開。 |
| 地域における人材の育成 |
| 地域における精神保健業務 |
| 地域における保健推進のための活動、組織づくり |
| 地域には、様々なケースが存在している。その中で救急目的で対応に時間的ゆとりのないケースもいる。そのようなケースを救うには、医療現場での経験や保健師以外の知識、技術(助産師など)が必要と思う。 |
| 地域に根ざした活動。 |
| 地域に根ざした活動を1つ1つ大切にしていくこと |
| 地域に根ざした業務企画 プレゼンテーション能力 |
| 地域に根ざす活動と他機関との連携強化 |
| 地域に根ざす保健活動。住民と協働して地域の健康レベルをあげること。 |
| 地域に根づいた、住民のニーズ(声)を反映した業務 |
| 地域に住む人々の生活を知らなければならぬため、保健師活動の基本である訪問を重視した活動がしていきたいというのが願い。地域に住む1人1人の人に合わせた指導などを行うにしても、やはりその人の生活が中心であるため、出来る限り個別での対応がしてゆけたらと思う。 |

| |
|---|
| 地域に出て、保健需要を把握し、システムづくりをすること。 |
| 地域に潜む問題(虐待など)を発見し、介入していくこと。 |
| 地域に潜在しているヘルスニーズの発掘と支援体制づくり。(事例を含む) 介護予防や健康づくりへの取り組み。 |
| 地域に潜在している虐待等のハイスケースの顕在化と援助 |
| 地域に潜在している問題の把握と関与 |
| 地域に潜在する(SOSを発信できない)事例の把握・支援 |
| 地域に暮らす人々の健康面からの住みやすさへのアプローチの追求。 |
| 地域に密着した存在になり、地域の問題を代弁し、解決できるよう働きかけができること。 |
| 地域に密着した保健活動 |
| 地域に密着した保健活動が基本で今後も重要 |
| 地域に様々な職種が関わるようになってきた 保健師がよりいされるためにはもっとPRしていかなければいけない、たよられた時に適切に応じていかなければいけないと思う。保健と福祉のどちらもの視点ももちながら医療職なのであればあくまで医療(臨床ケア)に強いというPHNでなければならぬと思う(ただ、毎日の業務多忙で臨床に強くなる勉強、訪看やDrとそれなりに対等に話ができるように勉強しなければ…と思います)ができていません) |
| 地域ネットづくり 他機関と協働しての事例関与 予防的な関わり事例関与 |
| 地域ネットワークづくり |
| 地域のコーディネーター役としてのケアマネジメント能力 |
| 地域のニーズ、健康課題を把握する能力(予防活動への関与) |
| 地域のニーズを科学的根拠から分析し、個人への取り組みを総合的に支援する |
| 地域のニーズを科学的根拠から分析し、個人への取り組みを総合的に支援する |
| 地域のニーズを施策化する能力 |
| 地域のニーズを把握した、その地域の特性を考慮した事業の展開 |
| 地域の育児力、介護予防力などを高めるための取り組み。 |
| 地域の各教室に積極的に介入してゆく |
| 地域の関係がうすくなっている。そこを補うこと |
| 地域の関係機関との連携を密にして、すこしでも問題のあるケースを把握し、早い段階でフォローをしていく(虐待など問題が複雑化する前に…) |
| 地域の関係機関のコーディネーター役 |
| 地域の結びつきが少なくなっているので、母子～老人まで孤立した生活にならないよう支援していくこと。 |
| 地域の健康づくり 介護保険、国民保険等サービスや医療費をおさえるためには予防あるのみ。原点にかえりまずは健康づくりに取り組むことと思う。おこってしまった事への対応には限界がある。 |
| 地域の健康づくり推進にむけた、ネットワーク化への能力 |
| 地域の健康のニーズをとらえて事業化していくこと、疾病を予防することで、医療費、介護保険料を削減する 母親の育児支援(個別対応)、地域の育児力を底上げすることで虐待を減らし子どもを育てやすい環境を作る |
| 地域の健康課題にそくした事業の企画、運営。事務職(上層部)の理解を得られるようなプレゼンのしかた、行政評価の力をつけていく必要がある。事例への関与という点では、虐待予防など。 |
| 地域の健康課題の把握、施策化 |
| 地域の健康課題を見きわめ、住民と共有し共同する一次予防のためのよい生活習慣の普及 |
| 地域の健康課題を評価できる視点、力量形成、組織化していく力 |
| 地域の健康作りをすすめることで健康人口を増加させること |
| 地域の健康問題のコーディネート |
| 地域の健康問題の把握と、健康増進の為に積極的な活動(統計分析能力及び、問題を見る視点の向上) |
| 地域の健康問題の把握とその解決のための企画調整する能力 |
| 地域の健康問題をとらえ、その改善に結びつけられるような事業の企画、施策化 |
| 地域の健康問題を察知し提起する、その解決のため、地域の資源をほりおこしネットワークを構築、地域の力を豊かにする方向で動く |
| 地域の健康問題を住民と共に考え、まとめていく能力 地域の健康課題は誰かが考えるのではなく、地域住民と共に考えていくものだと思います。その際、専門職の役割として必要な情報を提供し、見方等について説明することや様々な意見がでた場合、それをまとめ上げ、実行に移すことを支援する能力が必要だと思います。 |
| 地域の健康問題を政策につなげる力、地域の健康問題を眺めとり、住民と協同して問題の解決をはかる力、個別の困難・問題事例は関係機関とのネットワークづくりをして解決してゆく力 |
| 地域の健康問題を把握し、施策(人員確保等含む)に反映させること |
| 地域の健康問題を把握し組織的(地区住民と伴に)に問題の解決にあたっていくことが大切と思う |
| 地域の健康問題を把握できること |
| 地域の健康問題を発掘し、積極的に問題解消へ取り組んでいくこと。 |
| 地域の健康問題を分析し、住民をまきこみながら健康づくりを行っていきける力量。 |
| 地域の健康問題を明らかにし、よりよい保健福祉制度のたち上げなどへの関与 |
| 地域の健康問題を明らかにし住民の健康増進の役割が担えるような体制整備をはかる。そのために行政職員として、専門技術職として連携を図り、多職種の職員、住民と協働して保健活動を行うこと。 |
| 地域の見守り体制、支援体制を育てていくことが大切。 |
| 地域の現状を知りコーディネート機能をもつ事 必要性があっても種々のサービスにのらない、のれない人達へのアプローチ |
| 地域の資源を把握し、急な相談等危機介入ができるよう他機関等の連携をしていく |
| 地域の実情にあった事業展開(施策化)と危機管理 |
| 地域の実情に応じて、集団的にも個別にも対応できる職種として、住民からは期待されていると思う。保健だの福祉だのという業務の分類は住民から見れば関係ないと思う。住民の幸わせを一番に考え、どう動くのが最もシンプルだが、一番困難なことでもある(業務分類にこだわらずにいい方がいいのでは…) |
| 地域の実状を把握できる力 短い訪問で、相手の気持ちを感知とれる話力が必要だと思います。 |
| 地域の実態を正確に判断し、的をばった予防活動 |
| 地域の社会資源などの情報をもったうえで関係機関や関係者との連携をとりながら地域の健康度を上げていく事業を展開していく |
| 地域の住民1人1人のニーズをよく把握し、それに合った施策を行政として考えていくこと |

| |
|---|
| 地域の住民の健康感のアップや住民の声を大切にして予防活動の充実をはかる 地域住民の組織との連携をつとめて心がける |
| 地域の住民の生活と健康を守るための活動 疾病の予防と早期発見、早期治療を促す、そのため健康に関する知識の普及や啓業活動 医療費の負担を軽くし過重労働を避け、安心して医療が受けられるように |
| 地域の小単位におけるネットワークづくり。それによって子育て中の母親の自信、子どもの社会性を育て高令者とのじこもり予防などをはかること また、施策に結びつける役割 |
| 地域の状況を把握し、各組織と連携し、健康づくりをすすめていく力量 |
| 地域の状況把握、そこから地域の課題を見出し、必要な事業を企画すること、事業するにあたっては、もっと他職種と連携し、内容を深めること |
| 地域の新たなニーズを発掘するべく、個々のケースだけでなく、それをとりまく地域関係者などに関わっていくことで新たな健康課題を見つけ対応策を講じていくこと。地域に赴くことができること、地区組織活動ができることが他職種にない最大のメリットと考えます。 |
| 地域の人をまきこんだ健康づくり、介護予防対策、地域づくり。 |
| 地域の組織・住民、他部門と協働、あるいは連絡をとり合いながら業務をすすめること。広域的な動きが増え、一部署で問題解決が図られる事が少なくなっていると感じる為。 |
| 地域の組織と連携し、健康問題を地域組織活動として実施出来る様、支援する |
| 地域の中から健康にかかわる問題を見つけて、解決するための事業化等の施策能力 |
| 地域の中で、個をとらえ、個の問題を施策に反映していくための技量が必要、その為には、直接的関与だけでなく、多くの職種、機関からの相談にのり、間接的に得た情報や苦情、困難事例の検討から得たものをクラスアドボカシーしていく力が必要である。そしてその時のPHNのスタンスは、常に住民サイドにあることが求められる。また、住民、組織、他職種、他機関と連携していくためには、相互理解とお互いを認め合うことが不可欠である。地域福祉の中で、縦割りを横につなぐ機能があるのがPHNだと思う、特に今後在宅介護支援センターがワンストップ機能を有する時、在文への保健師必置を推進すべきだと思う |
| 地域の中での訪問活動による危機介入業務 |
| 地域の中で支え合える関係ができるような地域づくり 個別への支援としては、関係機関と連携をとり、対象者にとって良い選択ができるよう関わること |
| 地域の中で取り残されている事例を発見し、介入していくこと。 |
| 地域の中で住民がかかえている問題、何が必要とされているか把握し、他機関と連携をとって検討しよりよい方向へ導いていくこと。 |
| 地域の中で生活している人を地域がサポートできる体制を作るためのかわり |
| 地域の中で潜在しているケース SOSが出しにくいケース 虐待ケース |
| 地域の中で保健師という職種が本当に必要とされているのか、今の職場では感じられない。ただ、様々な部署で働く機会を与えられているので、そこで保健師の、保健師だから持っている視点を周りに伝えて活かしていけるような力を身につけていきたい。 |
| 地域の中で連携機関が有効なネットワークを組み、有機的な保健福祉活動が展開されるように。困難事例への関与…公的な立場で知り得た弱い立場の事例に対して対応していく |
| 地域の中にうまくつけこめず孤立していく母子、青少年障害者 高令者がますます増加していく社会情勢の中、地域の中で受け入れてくれる風土体制住民組織などを協同して作りあげていくなどの機能としての関与。 |
| 地域の中に潜む問題発見とその解決 |
| 地域の中に入り、住民に自分たちによる健康づくりの必要性を意識させ、行動につなげ、地域全体が生活しやすい環境になるように働きかけること。事業をこなすだけではなく、施策にも関わるといえるような仕事をしたいと思うが、とても余裕がなく、事業の評価までをするのに精一杯である。専門職に対する理解をしていただけるような働きかけ大事 |
| 地域の動きや地域からの要望etcをすばやく情報を集め地域と共にとり組んで行くことが大切だと思う |
| 地域の動きや地域からの要望etcをすばやく情報を集め地域と共にとり組んで行くことが大切だと思う |
| 地域の特性を把握した独自事業 各機関との連携をはかりながらの業務 |
| 地域の特性を理解し各関係機関と連携していることから、問題が起こる前の危機介入や、何かおこったときにすぐにご相談できる身近な職員として関わっていくべき(そうしたいと思う) |
| 地域の把握(問題点ニーズの発掘)予防事業 |
| 地域の保健ニーズを確認し、住民がお互いに健康になれるような関わり |
| 地域の保健分野を中心とした、政策(計画)づくりと、それをすすめていくための仕かけづくり。 |
| 地域の目標に即した企画立案 |
| 地域の問題の早期発見・早期対応 |
| 地域の問題をとらえられるような地区活動と他機関連携 |
| 地域の問題を事業化する業務、予算獲得の力など |
| 地域の問題を保健福祉施策の向上につないでいく業務、住民、多機関等と連携、協働して行う保健活動 |
| 地域の問題を明確にしてそれに基づいた事業を企画・運営する(市や局からおりてくる事業ではない) |
| 地域の問題を明確にしてそれに基づいた事業を企画・運営する(市や局からおりてくる事業ではない) |
| 地域の問題を明確化し施策化していける力 ケースの状況や力を適確に見極め、判断し、関係機関を動かしていける力が必要になってくる(特に虐待のケースなど)と思われる |
| 地域の様々なニーズについてリサーチを行い、事業計画、予算等に具体化したものを他職種に説明し、理解を得て実現していくための能力 具体的には企画能力、交渉能力、プレゼンテーション能力等。連携という部分については善段からの他の職種との人間関係等 本人の資質に関わってくる部分も多いと考える |
| 地域を力をつけるための支援をし、問題が生じた時に、地域全体で考え、とりくめるような雰囲気、協力体制づくり |
| 地域への介入 |
| 地域へ出て、地区を把握し、住民との連携、他機関との連携がとれて、問題の早期発見、早期対応を行うこと。 |
| 地域ボランティアの育成 |
| 地域マネジメント、コーディネート機能 ・記入例1、2. のような場合であっても、保健師が必ずしも援助者の核とならなくてもよい。SV的役割や調整役を果たしながら問題解決やケアマネジメントのシステムが円滑に動くような機能が必要。 |
| 地域も含めた、連携の中での事例への関与 |
| 地域や家族から孤立してしまっている社会不応事例への関与。 |
| 地域や各機関との幅広いネットワーク保持とそれらを能率良く生かすことのできる統一的な視点と能力。 |
| 地域や関係機関との連携、調整、働きかけ 子育て支援 |
| 地域や他機関から依頼のあった事例へのケースマネジメント(関連機関との連携) |
| 地域や他職種と連携し、住民の意識を変えていくこと |
| 地域や役所間、関係機関との連絡調整や地域の健康福祉への政策化への関与 |
| 地域をみ、住民の特性が理解している立場で、1. ケース援助する 2. 住民組織を育成する |

| |
|--|
| 地域をみる事ができる保健師であるからこそ、地域のニーズに合わせた政策立案ができること |
| 地域をみるたしかな目を養ってもらえる様、各組織、地域パワーを支援しながらコーディネートからプロデュースの段階まで持って行きたい。そうすれば限られたパワーが有効に、しかも大きな力として発揮できると考える |
| 地域をみる目とあくまでも予防を考えた活動について。対象者が多く、支援するにも限界。目先のことばかり考えるのではなく、できるだけ地域に出かけて、生活をみてほしい。 |
| 地域をみる力！ |
| 地域をよく診断し、その問題を当事者が自分のものとして考えられるよう支援する事 |
| 地域を活用した住民主体の活動づくり 信頼関係をつくり出せる活動 地区をみて保健師としての仕事を自ら作っていくこと。 |
| 地域を客観的に把握する能力 |
| 地域を見て保健活動を展開すること |
| 地域を見て保健活動を展開すること |
| 地域を見る観点 個々の事例はもちろんそれらをおして地域全体の健康問題を改善できることが重要 |
| 地域を見る視点と、そこからあがる統計処理から、より深く、具体的に健康問題をとらえて、提言していく能力。 |
| 地域を見る目(地区診断)をきちんともつこと |
| 地域を総合的にみる能力と、それに必要な施策を企画、実施する。そのための連携する調整役。 |
| 地域を知り、住民のニーズに合った活動をする事。 |
| 地域を知り、住民を知り、それぞれの方が自分らしい生活を送れるような支援。 |
| 地域を把握し、情報を整理し、予防活動を行う。 |
| 地域活動に基づく地域ネットワーク作り 目的は健康づくりの組織づくり、介護予防活動、虐待予防等色々あると思います。 |
| 地域活動の強化(住民参加、ソーシャルサポートシステムなど) |
| 地域活動の充実とそれを行政に反映させること。 |
| 地域活動の中で住民ニーズをキャッチし個別支援したり、状況によって事業を展開する、何事も差障り(関係機関や住民など)が、必要。ペースアップしていけるよう意識啓発が大切だと思う |
| 地域活動は、人と人のかかわりが大切だと思う。いかに信頼し信頼されるかではないかと思う。 |
| 地域健康づくりのコーディネート |
| 地域差がある。環境も様々なので重要度は各々で違う。同じ組織ごとで置きをおく業務はかわっていくと思う。 |
| 地域資源(育児ボランティア・保健推進員)の育成 |
| 地域住民(対象者)の保健福祉のニーズを把握し、評価する力、それを実現していくために、地区組織との連携や開発していく視点である 住民及び地域のケアマネジメントをする視点であると思います |
| 地域住民、関係機関から、信頼され必要とされる保健師活動 健康づくりなど総合的な施策に積極的にかかわる姿勢 |
| 地域住民、他関係機関と日頃連携を密にとりながら、いつでも対応できるような体制づくりのための調整力が必要ではないか？そのためにはやはり保健師自身が常に周囲に目を向けていかなければならないと思います |
| 地域住民、他機関から依頼があった事例への対応 |
| 地域住民・組織への介入。 |
| 地域住民1人1人の健康度をアップさせるためへの取り組み |
| 地域住民が、いつでも相談できるような体制・機能が必要。 |
| 地域住民からの苦情のケース、業務の中では対応できず様子を見るしかない事例 |
| 地域住民が健康であるための予防活動(心も身体も 不健康な状況にある人の発つと支援) |
| 地域住民が健康に暮らせるよう、予防の視点から地域で教室、サークルなどコミュニティ活動のきっかけづくり、見守り、コーディネートなどする。一住民の意識を高める一住民連による活動へ |
| 地域住民が自らの手で健康づくり町づくりができるよう支援していくこと(一番難しい) |
| 地域住民が自ら健康のあり方、生き方を選択できるようなたらきかけ |
| 地域住民が自ら健康のあり方、生き方を選択できるようなたらきかけ |
| 地域住民が自ら行動できる健康づくり(健康度アップ)のための手段、手技のアドバイス、支援をすること健康寿命を延ばすこと |
| 地域住民が主体的に、保健活動に取りくめるような活動への関与(ヘルスプロモーションの視点) |
| 地域住民が必要とするもの 先駆的な活動 ネットワーク的活動 |
| 地域住民が抱える処遇困難事例への関与(精神、痴呆等) |
| 地域住民サービス |
| 地域住民との関わりをもち、全体として保健活動すること、他機関と連携を図り、個別援助すること |
| 地域住民との協働とマネジメント力 |
| 地域住民との関わりを大切にしながら、地域全体の課題をくみとり、それを改善するため他機関と連携しながら総合的な市政企画へとつなげていくこと。その根回しの能力は重要。課題についても直感的につかむばかりでなく、自らの業務データを整理して、客観的データからもつかむそのバランスが大切。 |
| 地域住民と一緒に考えずめていく健康づくり業務 |
| 地域住民と一緒に町の健康づくりはどうあるべきかということを考えること |
| 地域住民と顔をあわせ話をし地域の現状を把握すること。そして住民と一緒に地区の健康を考え施策化していくこと。時代は変わっていますが基本は変わらないと思います。 |
| 地域住民と共に地域や個人の健康維持・増進及び介護予防に取り組んでいくこと。 |
| 地域住民と共に歩めるように協働していくような仕事が大切だと思います |
| 地域住民と協働した健康づくり |
| 地域住民と健康づくりを考える |
| 地域住民と交流しニーズや問題を抽出し改善にむけて他機関と連携をはかる事 |
| 地域住民と直接接して生の声を業務に反映すること。 |
| 地域住民と密着した事例への関与。 |
| 地域住民に親しまれる保健師であり、住民が本当に必要としているニーズをくみとりそれを事業化していく |
| 地域住民に保健師は地域のご家庭を訪問する職種であることを周知していただく活動と面接技能 |
| 地域住民のエンパワメントに関わる業務 災害看護についてのそなえ |
| 地域住民のニーズにスピーディーに対応する |

| |
|---|
| 地域住民のニーズに応えることができる関与 |
| 地域住民のニーズをくみ取った保健活動。個々にあった関わり |
| 地域住民のヘルススキルアップにつながる支援 |
| 地域住民のヘルススキルアップにつながる支援 |
| 地域住民のメンバーを効率的に活用できる力。 |
| 地域住民の意をくみとれること |
| 地域住民の健康づくり-地区組織の強化 |
| 地域住民の健康づくりと介護予防 子育て支援 |
| 地域住民の健康づくりのリーダーとして、最新情報の理解(研修の機会必要) 地域住民の健康実態の把握/健康増進・予防メニューの紹介 |
| 地域住民の健康に関することについての関与 |
| 地域住民の健康を守るための保健活動 |
| 地域住民の健康意識向上への関与。 |
| 地域住民の健康増進への関与 |
| 地域住民の健康問題は何かを考え、それに合ったサービスの提供。問題解決能力。 |
| 地域住民の自主グループ化支援能力 |
| 地域住民の疾病の一次予防、健康づくりへの関与 |
| 地域住民の疾病及び介護予防活動。 |
| 地域住民の主体的な健康活動の支援 |
| 地域住民の状況を的確に把握し、ニーズに応じた健康における自己管理能力をつけてもらえるような予防的アプローチ |
| 地域住民の声をすいあげ地域に合った事業展開ができること 計画立案～評価できる力 |
| 地域住民の声を行政施策に反映するために、多くの関係機関や住民と密に連携をとっていくこと |
| 地域住民の声を十分に受けとめ、施策にいかしていける感性、多方面にわたる調整と連携 |
| 地域住民の声を大切にし、ニーズを把握し、計画・施策につなげていくこと。 |
| 地域住民の組織づくりやエンパワーメント事業 |
| 地域住民の組織活動への関与 コーディネーター能力 |
| 地域住民の暮らしの実態を把握して、健康づくりが自分で考えて実行していけるような施策づくりに寄与すること |
| 地域住民の方々からの事例 住民の方へ保健師の役割を伝え、連携を図り、地域により密着した業務を心掛けていきたいと思っています。 |
| 地域住民の要求による保健予防事業の確立をしっかりと支援できる体制をつくりあげる |
| 地域住民の力を引き出し、住民自身が行動するような人材育成(社会教育的なところもあると思います) |
| 地域住民の力を活用した幼児虐待や老人孤独死予防の取り組み強化。 |
| 地域住民の力を高めて健康づくり支援ができるような関与 |
| 地域住民への関与やつながり、他職種との連携と、保健分野を含め、生活全般に関して問題を持つ事例への関与。 |
| 地域住民への健康づくり |
| 地域住民への健康づくりの啓蒙 |
| 地域住民や関係機関と共に健康づくりや地域福祉に取り組んでいくこと |
| 地域住民をまき込んだコーディネート力 |
| 地域住民一人一人に関与 他機関との連携 |
| 地域住民組織との連携を強化し、住民全体でお互いの生命を守り、育てられる地域づくりが必要 |
| 地域診断 ケースマネジメント能力 政策能力 |
| 地域診断と、そこから考えられた問題への対応能力、事業の企画、運営、評価が大切だと思います。 |
| 地域診断に基づいた保健活動 |
| 地域性を生かした業務 |
| 地域全体で事例を見守る体制作りのための連携と活動 |
| 地域全体の健康レベルのアップを目指しての、地道な地区活動の継続 |
| 地域全体の健康意識向上への支援 |
| 地域全体の健康課題を明確化し、その課題を住民に知らせ、具体的取り組みを行い、健康増進、疾病予防、介護予防を図る |
| 地域全体の健康向上(?)を含めて、個々の事例に関与し、必要な政策をうちたてていく能力、技術、ノウハウ |
| 地域全体の健康度を上げていけるような活動(分析力、実行力etc) |
| 地域全体の分析と本当に必要な事業 |
| 地域全体の保健の向上への関与 |
| 地域全体をみつめながら人とかかわる力 |
| 地域全体をみて、評価等している能力 様々な問題を抱えているケースについて、他と連携、協力していける能力 |
| 地域全体をみながら個人をしっかりとみていくということ。 |
| 地域全体をみると 関係機関との調整 |
| 地域全体を見て、問題を明確化し、事業計画に参加していく。 |
| 地域全体を見ることができると大きな視野 |
| 地域全体を考えた事業の見直し |
| 地域全体を考え他機関との連携を密にし、活動していく。 |
| 地域組織、自主活動団体の専門的支援 |
| 地域組織づくりに向けたアプローチ |
| 地域他機関との連携、調整 困難事例への対応等 |
| 地域担当の保健師活動部分と企画部門の交替業務、職分野の役割分担 |
| 地域等住民と対等にやりとりができる調整能力。 |
| 地域内の住民組織との連携活動 |
| 地域把握 企画・評価能力 |

| |
|--|
| 地域把握を行い、特徴を知り、ニーズや問題点を挙げた上で地域に根ざした保健活動を展開すること。 |
| 地域保健・福祉に関して先を見る目 |
| 地域保健の問題に対する情報収集、調査研究から始めて対策の企画・立案、運営、評価等、一連の流れを通して、他機関のケアチームメンバーや住民とうまく連携(協働)取りつつ実行できることが必要。(リーダー的に) さまざまな調整能力が必要と思う |
| 地域保健活動 専門性 保健師の処遇 |
| 地域保健活動に対するPHNのスーパーバイザー的な役割 |
| 地域保健計画策定、評価 |
| 地域保健施策の企画・立案・体制づくりにはたずさわる保健師が求められてくると思われる。そのためには、身近な健康問題解決のサポートをする相談業務がきちんとできる保健師が、地域を公衆衛生的に見る目を育てていくことが大切と思う。 |
| 地域保健事業の企画運営 |
| 地域保健福祉活動への積極的関与 |
| 地域保健法に変わってからは、地域担当している保健師が、対象者別になった為地域からすると保健師活動が希薄になり、どんな活動しているか見えなくなっていると思われる。又、公衆衛生(保健センター)の方向性を組織内、住民と共有する機会が少なくなっていると思う。今だからこそ、もう一度、地区担当の意味を知り、地域まるごと保健活動が必要だと思う。しかし、今の組織、人員配送ではなかなか困難と思われるが、一地区でもモデルとしてでも実施していかないと、保健師は事務的になってしまおうと思う。ヘルスプロモーション視点のまちづくりをすすめることが一番と思う。 |
| 地区・事業分析(保健師の視点でしか見えない「情報」「ニーズ」がつくづくあると思います。必要なマンパワーをいろいろな職種・機関からひっばってくっつける(連携)ことができる、または最もできやすい立場にあると思います) |
| 地区のニーズにあった予防活動 |
| 地区のニーズ把握と施策化 |
| 地区の健康課題を把握し、課題として表現し問題として認識してもらい、事業化していけるような能力 |
| 地区の住民へも事業への参加をすすめたり、介護状況への理解を深められるようにかかわり、協力して予防事業をすすめているような関わりをしていく |
| 地区の問題を訪問や事業を通して把握し、解決するための方法を考え実践していくこと。 |
| 地区をみつめ問題を施策にできる関与 |
| 地区をみつめ問題を施策にできる関与 |
| 地区を充分把握し、コーディネーターとしての役割をする保健師 |
| 地区活動に積極的にとり組み、事業の企画力も併せて持っていること。 |
| 地区住民が自分たちで、地区の健康問題の解決のために行動できるようにするための、地区組織への働きかけ |
| 地区住民ニーズに沿った活動 |
| 地区診断、事業評価など適確に判断し必要な事業を確実に実施していく力 |
| 地区診断、住民のニーズの把握 少子高齢化対策として、子育て支援と、介護予防事業 |
| 地区診断、保健事業の企画・運営・評価 |
| 地区診断し、住民のニーズを把握し、還元する |
| 地区診断と企画能力。 |
| 地区診断をして、要指導者への訪問をすること。災害時に独居老人等 支援が必要な方を避難所へ誘導、介助すること。住民のニーズをひきだし事業に反映させること |
| 地区診断をする能力をつける。統計資料等を見る目を養う。様々な情報を整理し、市民の健康の全体像を常に把握して対策につなげる。困難事例にかかわれる能力をつける。他職種を含めいろいろな人と日頃から交流をもつこと |
| 地区診断をもとに地域の保健問題の提案、住民とともにまちづくりを考える上での連携能力が求められると思う。個々のケースにあたっては、タイムリーに適切な関係機関へつなげることが大切 |
| 地区診断能力 |
| 地区組織、自主グループとのかかわり |
| 地区組織との連携を深めての予防活動。 |
| 地区組織との連携を通じた住民活動 |
| 地区組織の育成 企画・調整能力 |
| 地区組織や住民との連携を密にし、問題を未然に防いだり、深刻化する前に対応できるような関わり。 |
| 地区組織を巻き込んだ健康づくり活動のコーディネーター役 |
| 地区組織育成と意識の向上 |
| 地区組織活動 |
| 地区組織活動 産業保健分野での生活習慣病等予防活動 |
| 地区組織活動などによる、地域づくり |
| 地区組織活動に重点を置いて、住民自身が健康について考えて支えあっているようなシステム作り。個人では解決できない事例へは今までどおりの活動を行う |
| 地区組織活動への支援 健康づくり意識の普及 関係部署から持ち寄る事例へのサービス調整能力 |
| 地区担当制で、訪問活動を日頃から実施して、対象者、関係機関、地区の状況にも精通している必要あり。問題発生時や、ケース発生して、訪問必要時のみでは。 |
| 地区担当制をとっていますが、有効に活用されていないように最近思います。しかし業務担当がよいかというためらってしまいます。住民に支持され、保健所、保健センターが利用していただけるように、PHNのみでなく、行政として取り組まないといけないと思いますが…。事例に対して、例題にもあるような関与は必要かと思が個人々々のスキルアップが求められる |
| 地区特性に基づく介護予防や健康増進。(公民館や地区活動との連携、在宅介護支援センターが行う介護予防教室との連携など) |
| 地区特性を把握した上で地域の健康水準を上げるための活動。PHNはコーディネーター機能が必要とされると思うが、線の下の方の力持ちは少なく、上に出たがる人が多い、この辺りがおかしいと思うし、変えていかなければならない部分ではないかと思う。質問の主旨と異なる回答ですみません |
| 地区把握 全体を見通した連携 人の生涯を通じた支援 他機関の連絡・調整 現場主義 |
| 地区把握 同時に埋もれているケースの発掘 |
| 地区把握と社会情勢を含めた保健師の質の向上 常に学ぶ姿勢が重要だと思います。 |
| 地区把握をし保健、福祉、医療サービスを必要とする人の掘り起こし |
| 地区分析 |
| 地震等の災害時に地域全体の身体的・精神的安定を確保すること。 |